

137. クローズアップ坂道

技術戦略部調査役（建築）柴田 翼

昨年12月に日本下水道事業団本社が四谷から湯島に移転して早一年、私もすっかり平日昼間のみ「湯島っこ」になった気がします。湯島の街並みの特徴として、起伏に富んだ地形から坂道が多いことがあげられます。その坂道が街並みに変化を与え風情豊かな街並みの形成に一役買っているともいえます。

ここでは、職場近くに所在する湯島の坂道のうち、個人的に印象深い2つの坂道についてご紹介します。

(1) 天神石坂（天神男坂）

湯島神社の参拝経路の一つです。私にとっても通勤経路としてお世話になっている身近な坂道の一つです。別名男坂の名のとおり急な石段坂で、特に夏場の暑い時期は登りきるのに体力を消耗します。時折、私は通勤時に早足で一気にこの坂を登りきることにしており、登りきった後の疲労度で体力の現状を推測しています。また、波打った手摺のデザインも特徴的です。

(2) 実盛坂

生活路として利用されている急な石段坂です。私は散策中にこの坂に偶然出くわし標識に記載された「実盛坂」の名称を見て、もしやと思ったのですが、やはりその名称は「斎藤実盛」に由来したものでした。

斎藤実盛は、平安時代末期の武将で、自ら最後と覚悟を決めた戦で敵に首を取られても見苦しくないようにと、白髪を黒く染めて出陣しました。結局討ち取られ、当初誰か分からなかったのですが、その首が洗われたところ白髪に変わったため、ようやく本人であることが確認されました。討ち取った武将の大將は、かつて斎藤実盛に命を救われたことがあるため、その大將は人目をはばからず号泣したという話が、平家物語に記載されています。

標識によれば、坂下の南側に実盛塚や首洗いの井戸があったという伝説めいた話が文献に記載されているとのこと。私はたまたま斎藤実盛の話を知っていたのですが、このように偶然に歴史に触れあえるのも散策の魅力の一つです。

よく、人生には「上り坂」と「下り坂」、そして「まさか」の3つの坂があるといわれますが、私含め読者の皆様方のこれからの人生が平均して緩やかな上り坂となるようお願いしつつ、この辺で失礼いたします。